

J A 広島総合病院を受診された患者さまへ

当院では下記の臨床研究を実施しております。本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

研究課題名	膵体尾部切除での膵実質離断におけるprecompression法の有効性に関する多施設共同単盲検無作為化並行群間比較試験
倫理委員会承認番号	No. 21-3
研究の対象	膵体尾部切除術を予定されている患者さま
研究目的・方法	膵体尾部領域に病変があるとき膵体尾部切除術という手術が必要となります。この手術の重篤な合併症として膵液瘻（切除した膵臓から膵液が漏れ出ること）が挙げられます。膵液がおなかの中に漏れると腹腔内の様々な臓器に影響が及び出血や腫のたまりがでたりすることもあり、手術後の経過を大きく左右するだけでなく死亡に至ることもあります。そのため膵体尾部切除術後の膵液瘻を減らすための工夫がこれまでにも数多く試みられてきました。近年は腹腔鏡手術の普及により自動縫合器を使用して膵実質を切断する機会が大変増加していますが、厚い膵臓を自動縫合器によって切断する際には膵液瘻の発生が多くなるとの報告もあり、いまだに膵体尾部切除術における膵臓切断法について標準的方法は確立されていません。広島臨床腫瘍外科研究グループ（HiSCO）では、2016年より自動縫合器に補強材シートを装着して膵実質を切断することの有効性について臨床試験による検討を行いました。この検討では、補強材シートの有無によって全体の膵液瘻発生率に明らかな優劣は示されませんでした。しかしながら、その中でも膵臓の厚みが薄い場合においては補強シートを使用した群の方が膵液瘻の発生率が抑制されることを確認しました。今回の研究では、膵体尾部切除術で膵実質を切断するのに先立ち、膵臓実質に一定時間の圧迫を加えることによって膵切離予定部を薄くさせたのちに、自動縫合機を用いて膵臓を切断することによって、膵液瘻の発現率を抑制することができるか否かを比較検討したいと考えております。
研究に用いる試料・情報の種類	血液検査データ、手術データ、術後の診療記録データなどを使用します。
外部への試料・情報の提供	データは匿名化されたうえで広島大学病院内の研究事務局で一括管理され、研究分担者以外の外部組織へ提供されることはありません。
個人情報の取り扱い	使用した情報から氏名や住所等の対象者を直接特定できる個人情報は削除いたします。また、研究成果は学会・学術誌等で発表を予定していますが、その際も対象者を特定できる個人情報は使用いたしません。
利益相反の有無	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 ()
お問い合わせ先	廿日市市地御前1丁目3番3号 J A 広島総合病院 外科 研究責任者：佐々木秀 TEL：0829-36-3111 / FAX：0829-36-5573
備考	